

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	復刊の辞
Auther(s)	長崎, 広次
Citation	フランス文学 , 12 : 1 - 2
Issue Date	1978-05-20
DOI	
Self DOI	
URL	http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00040906
Right	
Relation	



復刊の辞

本支部の研究発表誌「フランス文学」は昭和34年12月20日に創刊され、昭和44年4月30日発行の第10、11合併号まで約10年間継続刊行された輝く伝統を有するのでありますが、その頃には当地区の各大学に紀要が次第に備えられてきたこともその一因ではありましたが、その後の大学紛争、経済的困難その他の原因が重なりまして、その後9年間の空白期間を経ましたことは誠に遺憾のきわみと申さねばなりません。ところが遂にこの度本誌の復刊が、タイプ印刷ながら装いを新たにしてお実現しましたことは、われわれ会員一同にとっての、まことに喜びに堪えない最近の一事件と申してもよからうかと存じます。

顧みますれば、本支部の研究発表会は今を過ぐる20年前の昭和32年11月に始まりましたが、翌年の第2回の研究発表会から本誌の誕生とともに活字になり始めました。創刊の頃の会員数は現在の約6分の1に当る10名余りでしたから、きわめて困難な状況のもとで本誌が誕生しましたことは、まさに壮挙と申すべきでありました。これは偏えに当時の初代支部長、広島大学の中村義男氏の責任感のきわめて篤い周到なご配慮、次回の支部長、岡山大学の杉富士雄氏並びに当時の会員諸兄の真摯なご熱意、そして刊行事務を担当されたその頃の広島大学仏文研究室助手の西岡政治氏、後の田中隆二氏のたゆまざるご努力の賜物であったことが、ここに深い感謝の念とともに回想されるのであります。

ところが昭和50年12月の支部総会において支部規約制定の動議が出され、翌51年12月の支部総会において当時の本学会幹事戸田吉信氏起草の規約原案が修正可決されましたが、その中の会費年額2,000円（学生1,000円）徴収、機関誌刊行の条項が起動力となり、昨年11月の香川大学における支部総会提出の執行部原案において隔年刊行の経済的見通しがつきまして、同総会において原案可決、早速編集委員が選挙されまして、本誌復刊実現へのスタートがきられましたことは、これ偏えに会員諸兄姉の、支部活動拡充の重要な一環としての研究発表誌刊行への真率なご熱意の賜物であったことを、執行部として厚く御礼申し上げる次第であります。そうして会費徴収が始まった昭和51年度と翌52年度の研究発表によって復刊第一号が構成される運びとなりました。

本誌刊行の空白期間に研究発表された会員諸兄姉の論文のうち、所属大学紀要その他に掲載されたものも多くあるとは思われますが、何と申してもこの期間のわれわれの非力と怠慢をここに深くお詫び申し上げます。

なお、本誌復刊の原案づくりにご尽力いただいた機関誌企画委員各位、復刊第1号刊行にご努力いただいた委員長を始めとする編集委員各位、特に刊行事務を担当していただいた刊行地元の編集委員兼本学会幹事、常々支部運営事務に携わっていただいている横山昭正

氏、さらに犠牲的出版を引き受けて下さった溪水社に、この機会をかりて篤く謝意を表したいと思います。

なお最後にひと言私の個人的希望を述べる事が許されるならば、今後会員諸兄姉の優れた研究成果が、例えば確実な考証から出発し、客観的・没個性的な方法による論証によって支えられつつ、真摯な主体的研究態度からは必然的に生まれる可能性の大きい、独創的な個性的思考と生ける感性とが、逆にこの論証をさらに深い次元から支えるに到るとでも申すべき論考（私見多謝）の、あるいはその他のあらゆる優れた方法による労作の数々が、われわれの愛する本誌を飾ることを祈念しつつ、これをもって僭越ながら復刊の蕪辞の結びに代えさせていただきたいと存じます。

昭和53年3月22日

支部長 長 崎 広 次